

4 災害の伝承と避難の呼びかけ

取組分類

参加体験

行動特性

デジタル

呼びかけ

自治体

新潟県村上市

問合せ先：新潟県村上市 総務課

取組概要

- 村上市小岩内地区では、昭和42年8月の羽越水害を忘れないよう、毎年、地域のお祭りと合わせて防災訓練を行い、**災害の記憶を伝承**してきた。
- 令和4年8月3日から的大雨では、**常日頃からの防災の備えが活かされ、被害が最小限に抑えられた。**

取組のきっかけ

- 羽越水害では、荒川流域で約6,000haの浸水被害、74名の死者・行方不明者が発生し、小岩内地区でも大きな被害を受けた。こうした災害を伝承するための取組を続けてきた。

取組のポイント

- 多くの住民が集まる「**地域のお祭り**」と合わせて「**防災訓練**」を行ってきた。また地区の公会堂には、羽越水害当時の写真を展示するなどし、**日頃から「災害を忘れないようにする」**ことに努めていた。

(こうした中、令和4年8月3日の大雨では)

- 令和4年8月3日21時30分、村上市はこの地区に対して避難指示を発令。
- 区長、役員、防災士が協議。「**空振りでもいい**」と判断し、地区の役員等が**住宅を一軒ずつ回り、住民に避難を促した。**
- 大雨により、指定緊急避難場所へ続く道は土砂崩れで通行できない状況。住民は、いったん公会堂に避難した。
- 区長には、羽越水害時の「大雨による急激な河川の増水」や、「流れてきた石がコンクリートに激しくぶつかる音」、といった**記憶が残っていた**。また、公会堂には、**羽越水害当時の写真も展示してあった。**
- こうした中で、大雨が降り続く中、**このまま公会堂にとどまることは危険と判断**。高台のより安全な場所に「**再避難**」した。

▼公会堂で展示している羽越水害の記録写真



▼被害をうけた集落



取組の効果

- 住民が避難を終えた後で、土石流が集落を襲った。公会堂にも大量の土砂や流木等が流れ込んだが、こうした避難行動が幸いし、**この地区では一人の犠牲者も出すことがなかった。**